

3. 2 協会・支部等の活動事例

各地の建設業協会や支部・部会は、自然災害の復旧や防災支援を始め、河川・道路清掃や植樹などの環境美化・保全、各種催し等による住民とのふれあい、地域の防犯活動など、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

平成 23 年度に顕彰した協会・支部等のこうした活動事例の中から、ここでは次の 18 事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A1-01	岩手県	(社)岩手県建設業協会 盛岡支部	豪雪災害の応急復旧活動
A1-02	長野県	(社)長野県建設業協会 飯山支部	長野県北部地震の応急復旧活動
A2-01	栃木県	(社)栃木県建設業協会 芳賀支部	災害情報システムの構築
A2-02	群馬県	(社)群馬県建設業協会	GPS 携帯による災害情報共有システムの構築
A2-03	滋賀県	(社)滋賀県建設業協会	琵琶湖西岸断層帯地震を想定した図上演習
A3-01	栃木県	(社)栃木県建設業協会 足利支部	「愛りバーとちぎ」による河川美化活動
A3-02	石川県	(社)白山・石川建設業協会	「標高差 2702m のクリーン大作戦」
A3-03	山口県	(社)山口県建設業協会 山口支部	公共施設のクリーンアップ作戦
A4-01	秋田県	(社)平鹿建設業協会建 青会	「ほたるのタペ」鑑賞会の開催支援
A5-01	茨城県	(社)茨城県建設業協会	「建設フェスタ 2010」の開催
A5-02	新潟県	(社)新潟県建設業協会 長岡支部	「土木フェスティバル」の運営
A5-03	石川県	(社)加賀建設業協会土 木委員会	「はたらく機械、はたらく車とあそぼう」
A5-04	兵庫県	(社)兵庫県建設業協会 淡路支部青年部会	「夏休み子ども工作教室」の開催
A6-01	高知県	(社)高知県建設業協会 中村支部	防犯パトロールと交通安全指導
A6-02	佐賀県	(社)建設業協会佐賀	幼稚園・保育園の園庭芝生化活動
A7-01	三重県	(社)三重県建設業協会 伊勢支部	南伊勢町での鳥インフルエンザ防疫支援活動
A7-02	三重県	(社)三重県建設業協会 熊野支部	紀宝町での鳥インフルエンザ防疫支援活動
A7-03	奈良県	(社)奈良県建設業協会 五條支部	五條市での鳥インフルエンザ防疫支援活動

(1) 災害復旧支援活動

協会及び支部等の災害復旧支援活動として、次の2事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A1-01	岩手県	(社)岩手県建設業協会 盛岡支部	豪雪災害の応急復旧活動
A1-02	長野県	(社)長野県建設業協会 飯山支部	長野県北部地震の応急復旧活動

事例 A1-01 : 岩手県

豪雪災害の応急復旧活動 ((社)岩手県建設業協会盛岡支部)

平成22年12月23日、前日からの大雪で、岩手県岩手町の山間部で道路への倒木が相次ぎ、大坊地区の国道281号線が10km以上にわたって通行不能となった。

翌24日朝、岩手県建設業協会盛岡支部は、岩手県と締結した「災害時における応急対策業務に関する協定」に基づく県からの支援要請を受けて、事前に準備していた地元の会員8社を推薦し、各社は直ちに復旧作業に取り掛かった。

現地では、道路脇の立木が倒木となって散乱していたが、各社が重機・作業員などを効果的に投入し、一丸となって復旧に努めた結果、当日の午後5時には通行止め区間の復旧作業が完了し、無事開通させることができた。



国道を覆う倒木



倒木の撤去作業



倒木の撤去作業



倒木撤去完了

長野県北部地震の応急復旧活動（社）長野県建設業協会飯山支部

平成 23 年 3 月 12 日早朝に発生した長野県北部地震は、最大震度 6 強を観測した本震（M6.7）とそれに続く 2 度の大きな余震により、下水内郡栄村を中心に甚大な被害をもたらした。この地震により、栄村では 600 棟を超える家屋が被害を受け、広範囲で断水し、秋山地区を除く全村に避難指示が出された。また、各地で道路の陥没や土砂崩れが発生して、交通網が遮断された。

長野県建設業協会飯山支部は、長野県飯山建設事務所の要請を受けて、栄村の幹線道路である国道 117 号線の交通を早期に回復すべく、直ちに安全対策を含めた応急復旧活動を開始した。

会員各社から延べ 60 人余を動員して復旧作業を進めた結果、3 月 24 日には、普通車両が通行可能となるまでに回復させることができた。同時に、栄村地区内の道路・水道の復旧にも取り組んだ。

同支部会員による献身的な復旧活動は、栄村村長をはじめ避難先の村民からも高く評価され、災害時における建設業の役割が改めて認識された。



長野県北部地震による家屋被害



国道 117 号線の陥没被害



陥没箇所の穴埋め



道路亀裂の修復



修復部の仕上げ

(2) 防災支援活動

協会及び支部の防災支援活動として、次の3事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A2-01	栃木県	(社)栃木県建設業協会 芳賀支部	災害情報システムの構築
A2-02	群馬県	(社)群馬県建設業協会	GPS 携帯による災害情報共有システムの構築
A2-03	滋賀県	(社)滋賀県建設業協会	琵琶湖西岸断層帯地震を想定した図上演習

事例 A2-01：栃木県

災害情報システムの構築（(社)栃木県建設業協会芳賀支部）

栃木県建設業協会芳賀支部は、栃木県との防災協定に基づき、台風時等の待機、道路・河川等の点検パトロールを長年にわたって実施してきた。平成 22 年には、こうした活動の経験を活かして、支部管内の災害への早期対応を目的とした災害情報システムを構築し、その有効性を確認するための訓練を実施した。

この災害情報システムは、携帯電話とそのメール機能、カメラ機能を駆使して災害情報を即時に収集・管理することで、早期対応を図ることを基本としている。

各会員は、年度ごとに定めた緊急災害時連絡網に従ってパトロールを行い、対策本部に写真報告する。本部は報告内容を取りまとめて、真岡土木事務所に提出し、対策班を編成して待機させる。土木事務所からの対応要請があれば、直ちに対策班が出動して、応急対策にあたる。各会員の担当エリアは、概ね 20 分で到着できるように設定している。

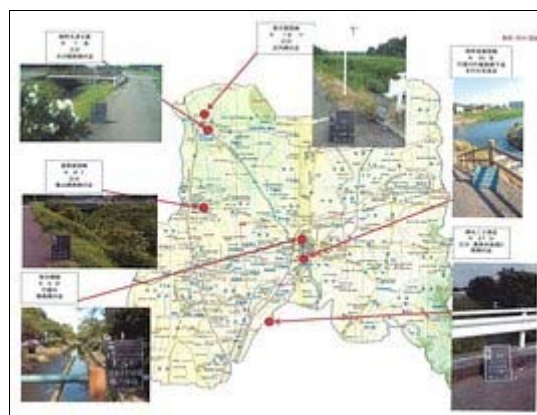
訓練では、対策班への連絡から状況報告まで、ほぼ目標通りの時間で実施可能であることを確認した。



河川緊急災害時連絡網



パトロール報告の受信



パトロール報告に基づく状況マップ

GPS 携帯による災害情報共有システムの構築 ((社) 群馬県建設業協会)

群馬県建設業協会は、群馬県をはじめ各自治体や国土交通省と「災害応急対策業務に関する協定」を締結しており、災害時または災害発生が予想される時には、パトロールや応急対策を行っている。しかし、近年多発している広範囲にわたる自然災害時には、情報が錯綜して、対応が混乱するケースも見られた。

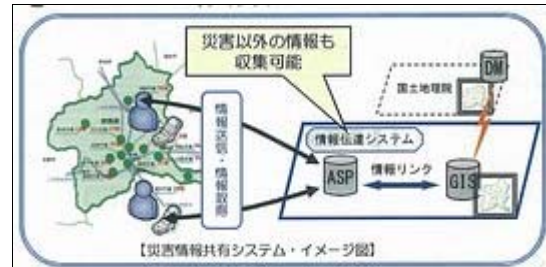
そこで同協会では、官民でのスムーズな情報共有化を図るため、平成 20 年、迅速かつ一元的に情報管理できる「GPS 携帯による災害情報共有システム」を構築した。

このシステムは、GPS 機能付き携帯電話で撮影した現地写真をサーバーにメール送信すると、地図上に位置プロットされて画像表示される仕組みで、支部や会員企業及び行政機関は、この蓄積情報に何時でもアクセスできるようになっている。

平成 20 年 6 月の実証実験を経て、同年 10 月から会員各社に GPS 携帯を配付して操作方法の講習を行い、本格的にシステムを導入した。平成 21 年度からは、毎年 5 月の道路クリーン作戦の際に、このシステムを使って状況報告する訓練を行っており、実際の台風や集中豪雨による災害時にも有効に機能した。

特に東日本大震災では、電話通信がほぼ不可能な状況の中で、このシステムは問題なく稼動し、群馬県庁が県内の被災状況を把握する上でも大いに役立った。

大震災以降、災害時の建設業の役割が見直されている中、同協会ではこのシステムの災害情報を一般公開できるようにステップアップした。業界と行政機関との情報共有ツールとしてだけでなく、建設業が地域の人々の暮らしを守る役割を果たしていることを広くアピールする手段として、このシステムを有効に活用していく考えである。



システムイメージ



パトロール報告受信画面



携帯電話による現場からの投稿写真



一般公開用位置プロット画面

琵琶湖西岸断層帯地震を想定した図上演習（社）滋賀県建設業協会

滋賀県建設業協会は、関係行政機関との防災協定に基づき、災害発生時に迅速に対応できるように、日頃から会員の保有資機材や稼働現場の把握等に努めている。また、定期的に防災訓練を実施して、対応方法の見直しを図っている。

平成 23 年 1 月 26 日には、こうした防災活動の一環として、滋賀県庁において、関係行政機関と合同で琵琶湖西岸断層帯地震を想定した図上演習を実施した。



図上演習会場

この演習では、滋賀県北部で M7.8 の地震が発生し、各地で道路が寸断されたとの想定で、対策本部の設置と被害状況の把握、行政機関から建設会社への出動要請、現地での応急復旧までの流れを机上で再現しながら、課題を抽出した。

参加機関は、近畿地方整備局、滋賀県、大津市、高島市、同協会及び日本土木工業協会であり、参加者は、会場外での対応を含めて約 330 名に上った。

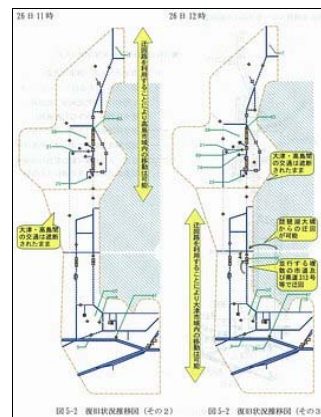
「国と県、建設団体が合同でこれほど大規模な図上訓練を行うのは全国でもはじめて」（近畿地方整備局）で、マスコミにも大きく取り上げられ注目を集めた。



各対策本部での情報収集



関係機関との協議



復旧状況推移図

(3) 環境美化活動

協会及び支部の環境美化活動として、次の3事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A3-01	栃木県	(社)栃木県建設業協会 足利支部	「愛リバーとちぎ」による河川美化活動
A3-02	石川県	(社)白山・石川建設業 協会	「標高差 2702mのクリーン大作戦」
A3-03	山口県	(社)山口県建設業協会 山口支部	公共施設のクリーンアップ作戦

事例 A3-01 : 栃木県

「愛リバーとちぎ」による河川美化活動 ((社)栃木県建設業協会足利支部)

栃木県建設業協会足利支部は、平成17年、足利土木事務所(現安足土木事務所)及び足利市と「愛リバーとちぎ」(河川版ボランティアサポートプログラム)の合意書を締結した。これは、足利市内の河川及び関連施設を定期的に清掃する奉仕活動で、同支部は河川公園や河川防災ステーションなど数カ所を担当している。

以来、毎年4回、会員会社から述べ200名ほどが参加して、各所の草刈りや清掃活動を行うことで、市民に憩いの場を提供し続けている。



蓮台寺川今福町河川公園の除草



袋川河畔の除草



姥川河畔の除草



姥川の清掃

「標高差 2702m のクリーン大作戦」((社) 白山・石川建設業協会)

白山・石川建設業協会の管内は、霊峰白山の山麓から、溪谷美を誇る手取川、白砂青松の日本海まで、山、川、海の豊かな自然に恵まれた地域である。同協会は、平成 17 年の発足以来、こうした地域の素晴らしい環境を守るため、道路清掃等のボランティア活動を精力的に実施してきた。

平成 20 年度からは、それまでの活動をさらに発展させ、「標高差 2702m のクリーン大作戦」として展開している。

これは、海岸部から白山頂上まで、標高差 2702m にわたる環境美化活動で、①松任海岸の清掃、②管内 15 路線 80km の道路清掃、③白山清掃登山及び外来植物除去作業の 3 つの活動の総称である。

平成 22 年度は、5 月 30 日の海岸清掃に 70 名、8 月 3 日の道路清掃に 340 名、8 月 9～10 日の白山清掃登山及び外来植物除去作業に 33 名が参加した。

この活動は現在、国土交通省、石川県、白山市、白山自然保護センター、環白山保護利用協会、白山観光協会等と連携した活動となって、地域に定着している。

特に白山では、近年、増加する登山客とともに外来植物の種子が持ち込まれ、クロユリ、ハクサンコザクラ等貴重な高山植物の植生を脅かしており、問題となっている。

白山の美しい自然環境と生態系を後世に残すために、同協会は、今後さらに白山清掃登山及び外来植物除去作業の拡充を図っていく考えである。



松任海岸の清掃



管内道路脇の草刈り



白山清掃登山及び外来植物除去作業

公共施設のクリーンアップ作戦（(社)山口県建設業協会山口支部）

山口県建設業協会山口支部では、平成 11 年より、毎年 7 月下旬に開催される山口市の伝統行事「ふしの夏祭り」の直前に、会場を含めた市内各所で「公共施設クリーンアップ作戦」を実施している。

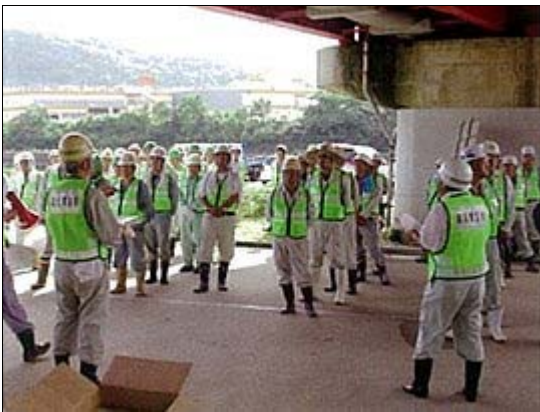
平成 22 年は、梅雨明けの 7 月 22 日、94 社から総勢約 300 名が参加して、山口市内 6 箇所の公共施設に分かれて、クリーンアップ作戦を展開した。

このうち、夏祭りの会場となる小郡地区の榎野（ふしの）川東津河川緑地公園では、朝 9 時に集合した約 80 名の参加者が、揃いのネーム入りベストを着用し、4 班に分かれて草刈りやゴミ拾いに汗を流した。

草刈り班が刈った草は、公園内の道路脇に積み上げられ、会員所有の収集車が順次回収していった。一方、ゴミ拾い班は、草むらに捨てられた空き缶や弁当くず、ビニール袋などを拾い集めた。

市の中央部を貫いて周坊灘に注ぐ榎野川は、山口市の豊かな自然環境の象徴であり、河川敷には多くの公園やイベント広場などが整備され、市民に親しまれている。同支部の継続的な清掃活動は、市民の啓蒙にも役立っており、公園に捨てられるゴミは年々少なくなり、利用者のマナーも良くなってきた。

同支部は、「公共施設クリーンアップ作戦」を地域貢献の中心と位置付けており、今後も対象施設を拡大していく方針である。



清掃作業前ミーティング



河川緑地公園の草刈り



会員所有の収集車による刈り取った草の回収



(4) 環境保全活動

協会及び支部の環境保全活動として、次の事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A4-01	秋田県	(社)平鹿建設業協会建青会	「ほたるの夕べ」鑑賞会の開催支援

事例 A4-01 : 秋田県

「ほたるの夕べ」鑑賞会の開催支援 ((社)平鹿建設業協会建青会)

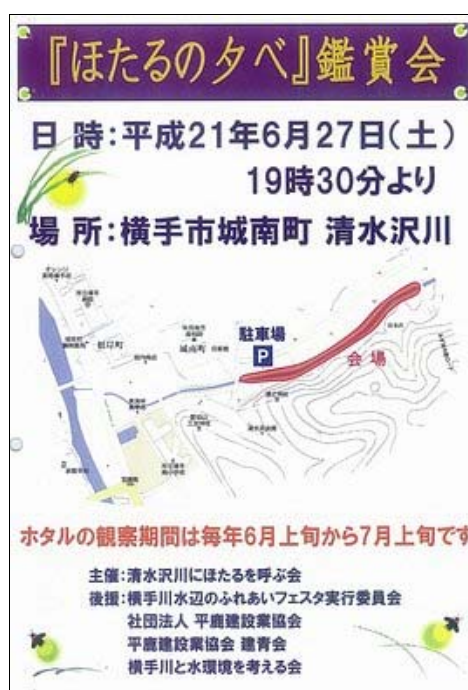
平鹿建設業協会建青会は、平成 17 年度より、地元横手市清水沢川の初夏の風物詩「ほたるの夕べ」鑑賞会の開催を全面支援している。

この鑑賞会は、地元の有志が結成した「清水沢川にほたるを呼ぶ会」が主催し、平鹿建設業協会などが後援するイベントで、横手川水系の恵まれた自然環境の保全を通じて、地域住民や子供たちとの交流を図る「横手川水辺のふれあいフェスタ」の主要事業となっている。

同協会建青会は、まず、ほたるの生息できる河川環境の復元に取り掛かった。雑草で覆われ、泥が溜まっていた清水沢川の岸边や川底を整備し、ほたるの餌となるカワニナの生息環境を整えた。またこの環境を維持・保全していくために、毎年継続して草刈りや清掃活動を実施している。



清水沢川の整備作業



「ホタルの夕べ」案内

こうして、毎年 6 月中旬～7 月上旬になるとほたるの飛び交う姿が見られるようになり、「ほたるの夕べ」鑑賞会が開催できるようになった。

建青会は、この鑑賞会の運営にも主体的に関わっており、参加者の募集から、会場の設営・撤収、交通整理まで担当している。

「ほたるの夕べ」鑑賞会には、毎年約 400 人の市民が訪れて、淡く光るホタルの飛翔を楽しみ、癒しのひと時を過ごしている。

(5) 建設業ふれあい活動

協会及び支部の建設業ふれあい活動として、次の4事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A5-01	茨城県	(社)茨城県建設業協会	「建設フェスタ 2010」の開催
A5-02	新潟県	(社)新潟県建設業協会 長岡支部	「土木フェスティバル」の運営
A5-03	石川県	(社)加賀建設業協会土 木委員会	「はたらく機械、はたらく車とあそぼう」
A5-04	兵庫県	(社)兵庫県建設業協会 淡路支部青年部会	「夏休み子ども工作教室」の開催

「建設フェスタ 2010」の開催（社）茨城県建設業協会

茨城県建設業協会は、平成6年度より、国や県、建設関連団体と合同で「建設フェスタ」を開催している。これは、茨城県民（特に小学生以下の子どもとその父兄）に建設産業の魅力や公共事業の重要性を理解してもらうための体験型イベントで、毎年多くの来場者を集める秋の恒例行事となっている。

平成22年度の「建設フェスタ 2010」は、10月24日、国営ひたち海浜公園西ロケット前特設会場において、約12,000人の来場者を集めて開催された。

朝9時の開会式に続いて、親子競演丸太切り、建設作業体験リレー、建設機械の操作体験、クイズラリー、ミニ上棟式など、参加51団体のスタッフによる多彩なプログラムが繰り広げられた。各団体からの提供商品によるチャリティーオークションの収益金は、骨髄バンクを支援する「いばらきの会」及び茨城新聞社文化福祉事業団に寄付された。

「建設フェスタ」を毎回楽しみにしているリピーターも多く、同協会では、今後も楽しんでもらえるプログラムを拡充していきたいと考えている。



「建設フェスタ 2010」案内



建設作業体験リレー



建設機械の操作体験



ミニ上棟式



「土木フェスティバル」の運営（社）新潟県建設業協会長岡支部

新潟県建設業協会長岡支部は、平成2年より毎年開催される「土木フェスティバル in NAGAOKA」の実行委員として、その企画・運営に携わっている。

「土木フェスティバル」は、地域の人々に優れた土木技術を紹介し、触れ、親んでもらうとともに、社会資本整備の意義や重要性を理解してもらうことを目的としたイベントである。

平成22年度（第21回）は、10月3日、国営越後丘陵公園と市内3カ所の現場で開催された。

メイン会場である国営越後丘陵公園では、土木事業や技術に関する写真・パネル・模型の展示に加え、ロータリー除雪車、リフト車、降雨体験車、土砂災害体験装置などの実演、体験を行った。

現場見学会は、刈谷田川ダム～刈谷田川災害復旧現場コースなど、3つのコースで実施し、参加者は、普段入ることのできない施設や工事現場に興味深々の様子であった。

同協会は、「土木フェスティバル」を毎年継続して開催することで、地域の人々の土木事業への理解が一層深まることを期待している。



チラシ



土木技術に関する屋内展示



ロータリー除雪車の試乗



リフト車の試乗体験



刈谷田川ダム内部の見学

「はたらく機械、はたらく車とあそぼう」(社)加賀建設業協会土木委員会

加賀建設業協会土木委員会は、平成 20 年度より、加賀市内の保育園児たちとのふれあいイベント「はたらく機械、はたらく車とあそぼう」を開催している。

これは、保育園に建設機械を持ち込んで、園児たちに見て、触れて、乗ってもらいイベントで、子どもたちに建設の仕事を知ってもらい、建設業の役割と大切さを理解してもらうことを目的としている。

平成 22 年度は、5 月 28 日、加賀市河南町の新生保育園で開催した。当日は、ショベルカーやバックホウ、ミキサー車、ダンプトラックなど建設機械 5 台を運動場に展示して試乗体験などを行うとともに、工事の写真展示や、測量器による視準体験も行われた。

約 100 人の園児たちは、普段は遠く見ているだけの建設機械を間近で見ると歓声を上げながら、興味深そうに触れたり、操縦席に座ったりして楽しんだ。また、子どもたちの好きな着ぐるみキャラクターも登場して、一緒に記念撮影するなど人気を集めた。

同会では、建設業が地域社会に密着した存在であり続けるためには、まず地域の子どもたちに関心を持ってもらうことが大切であると考えており、これからもこのふれあい活動を継続していきたいとしている。



ショベルカーとのふれあい



測量器による視準体験



着ぐるみキャラクターの登場

「夏休み子ども工作教室」の開催（社）兵庫県建設業協会淡路支部青年部会

兵庫県建設業協会淡路支部青年部会は、毎年8月に、地域の小学生を対象とした「夏休み子ども工作教室」を開催している。これは、全国建設青年の日（7月28日）事業の一環として取り組んでいるもので、専門家の指導による工作体験を通じて、子どもたちに“ものづくり”への興味を持ってもらうとともに、父兄たちにも建設業を身近に感じてもらうことを目的としている。

平成22年度は、8月7日、淡路商工会館にて、淡路市内の小学校高学年の児童20名とその父兄が参加して、午前と午後の2回に分かれてマガジンラック作りを体験した。

講師が工作手順や注意事項などをひと通り説明したあと、児童一人につき一作品を時間内で完成させるため、青年部会会員13名が先生となって、のこぎり、かなづちの使い方から、寸法の合わせ方、組み立て方まで、ほぼマンツーマンで指導した。

のこぎりを使うのが初めてという子どもも多く、苦勞している様子であったが、釘を打ったり、ボンドで接着することで、白木の板がだんだんマガジンラックの形に近づいていくと、親子で満足げな笑顔を浮かべていた。

同青年部会は、こうした活動を通じて、地域とのつながりを一層深めていきたいと考えている。



夏休み子ども工作教室



青年部会の講師による指導



マガジンラックの製作

(6) 社会福祉活動

協会及び支部の社会福祉活動として、次の2事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A6-01	高知県	(社)高知県建設業協会 中村支部	防犯パトロールと交通安全指導
A6-02	佐賀県	(社)建設業協会佐賀	幼稚園・保育園の園庭芝生化活動

事例 A6-01：高知県

防犯パトロールと交通安全指導（(社)高知県建設業協会中村支部）

高知県建設業協会中村支部では、地域犯罪の抑止と通学時の事故防止を目的に、平成21年度より、夜間の防犯パトロールと通学時の交通安全指導を実施している。

近年、全国的に犯罪の悪質化、低年齢化が進んでおり、子どもを狙った犯罪も増加している。高知県においても同様であり、こうした傾向を憂慮した同支部は、平成21年10月、中村地区地域安全協会による「幡多こども見守り隊」に参加して、子どもたちを犯罪や事故から守るための活動を開始した。



こども見守り隊発足式

平成22年度は、7月31日の「しまんと市民祭」、11月22日の「一條大祭」に合わせた夜間パトロール（参加28名、18名）を実施した。また、9月の交通安全運動期間中には、全会員が最寄の交差点で、交通安全の街頭指導を行った。

各班が着用している揃いの蛍光ベストは、夜間でも良く目立ち、通りがかりの人から「御苦労さま」と声を掛けられることも多くなった。

同支部では、より安全で安心できる地域社会づくりに貢献するために、協会本部と連携して、地域防犯活動の輪をさらに広げていきたいとしている。



中村支部管内の夜間防犯パトロール

幼稚園・保育園の園庭芝生化活動（社）建設業協会佐賀

建設業協会佐賀は、子どもたちに“裸足で遊べる環境”を提供するため、平成 17 年より、幼稚園・保育園の園庭芝生化活動を実施している。これは、佐賀市内の幼稚園・保育園から毎年 1 カ所を選定し、園児や父兄らとともに園庭に芝生を張る活動で、その 2 ヶ月前には、現地測量・地盤整備を行ない、必要があれば地盤改良等も行っている。

平成 22 年度は、6 月 5 日、市内の日新保育園の園庭で、協会員 55 名と園児や父兄ら総勢約 100 名が参加して、約 360 m²の園庭に芝生を張った。

園児らは、協会員の指導で、芝生のパネルを丁寧に敷き詰めたあと、小さな一輪車やバケツを使って楽しそうに砂を運んで、隙間に埋めていった。

近年、子どもたちが安全に遊べる場所が少なくなっている中で、芝生の園庭はケガの心配もなく、安心して裸足で遊ぶことができる。また、地球温暖化防止にもつながるため、園の関係者だけでなく地域住民からも喜ばれている。



園児・父兄らとの芝生張り



芝生化された日新保育園の園庭



保育園からの感謝状

(7) 防疫活動

協会及び支部の防疫活動として、次の3事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A7-01	三重県	(社)三重県建設業協会 伊勢支部	南伊勢町での鳥インフルエンザ防疫支援活動
A7-02	三重県	(社)三重県建設業協会 熊野支部	紀宝町での鳥インフルエンザ防疫支援活動
A7-03	奈良県	(社)奈良県建設業協会 五條支部	五條市での鳥インフルエンザ防疫支援活動

事例 A7-01 : 三重県

南伊勢町での鳥インフルエンザ防疫支援活動 (社)三重県建設業協会伊勢支部

平成23年2月26日、三重県南伊勢町の養鶏農場において、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された。三重県は、飼養鶏の殺処分や移動制限等の防疫措置を決定し、自衛隊をはじめとする関係機関に防疫処分に係る作業要請を行った。

三重県建設業協会伊勢支部は、協会と三重県との「家畜伝染病等の緊急時における基本協定」に基づき、直ちに殺処分鶏の埋却処理業務の態勢を整えた。

翌27日早朝、南伊勢町を担当する会員7社が協力して、重機5台と投光機等を用意し、埋却予定地に出動した。処分鶏は約24万羽と見込まれ、これに対応するため、長さ25m、深さ4mの埋却溝3カ所の掘削に着手した。各社は、次々と運ばれてくる処分鶏の埋却と掘削との並行作業に、昼夜分かたず専念した。

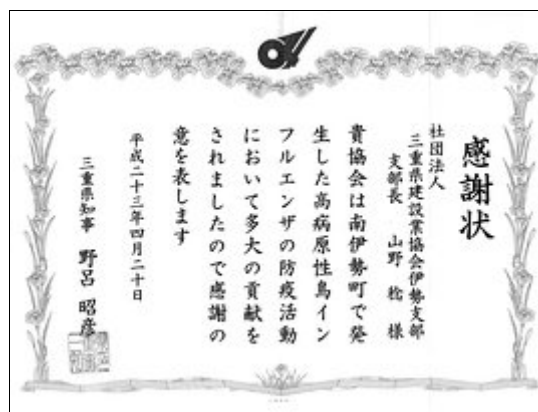
年度末で多忙な時期であったが、最優先で埋却処分に努めた結果、3月3日には埋却が完了し、消毒作業を経て、28日の鳥インフルエンザ終息宣言を迎えた。



処分鶏の埋却



埋戻し作業



三重県知事からの感謝状

紀宝町での鳥インフルエンザ防疫支援活動（(社)三重県建設業協会熊野支部）

平成 23 年 2 月 16 日、三重県紀宝町の養鶏農場において、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された。三重県では、直ちに高病原性鳥インフルエンザ対策本部を設置して、飼養鶏の殺処分、農場周辺の移動制限等の防疫措置を実施した。

三重県建設業協会熊野支部は、協会と三重県とが前年 7 月に締結した「家畜伝染病等の緊急時における基本協定」に基づく支援要請を受け、直ちに会員会社から従業員 12 名と重機 2 台を手配して、農場の敷地内に設けられた埋却予定地に出動させ、殺処分鶏の埋却処理の準備を始めた。

現地では、試掘により土壌に問題がないことを確認した後、処分鶏約 6 万 7 千羽分の埋却溝 2 カ所の本掘削を開始した。

2 日後の 18 日 7 時、埋却溝の掘削が完了し、引き続き、溝内の整地、消石灰による消毒（複数回）、ブルーシートの敷設、クレーンによる処分鶏や鶏糞、残存飼料等の投入に取り掛かった。年度末で多忙な時期であったが、24 時間体制で埋却作業に努めた結果、20 日には全埋却物の投入及び埋戻しが完了した。

こうした突発的な事態が発生した場合に、建設業が果たすべき役割は大きく、同支部は、今後も迅速な対応ができる体制を維持していく考えである。

なお、同年 4 月には、今回の防疫活動への貢献に対して三重県知事より感謝状が贈られている。



処分鶏の埋却



処分鶏の埋却



三重県知事からの感謝状

五條市での鳥インフルエンザ防疫支援活動（社）奈良県建設業協会五條支部

平成 23 年 2 月 28 日、奈良県五條市の養鶏農場において、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された。奈良県では、直ちに高病原性鳥インフルエンザ防疫対策本部を設置し、約 10 万羽の殺処分及び埋却等の防疫措置を決定した。

鶏の殺処分は、県や市の職員など 150 名により同日夜から始まった。一方、埋却処分地の選定は、近隣の同意が得られず難航し、3 月 2 日にようやく確定した。

奈良県建設業協会五條支部は、協会と奈良県とが同年 1 月に締結した「家畜伝染病発生時における支援活動業務協定」に基づく要請を受け、早速、殺処分鶏の運搬・埋却作業に取り掛かった。

作業には会員会社から 12 名が参加し、大型パワーショベルなど重機 5 台、ダンプ 6 台を投入して、幅 20m、深さ 5m、長さ 140m の埋却溝の掘削を 24 時間体制で進めた。

悪天候と異臭が漂う中、防護服を着用しての掘削作業は困難を極めたが、オペレーターをはじめ作業員は、心身ともに疲労の限界まで粘り強く作業を続けた。

3 月 5 日午前 3 時、10 万羽の埋却処分が終了し、引き続き、飼料・鶏卵・鶏糞を埋却して、翌 6 日午後 4 時過ぎに全ての作業が完了した。

同支部は、今後も起こりうるこうした事態に備えて、埋却地の確保や指揮命令系統の一本化などの課題を、行政機関とともに解決していきたいとしている。



埋却溝の掘削



処分鶏の埋却



処分鶏の埋却、消毒